

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Risk of preterm birth, low birthweight, and small-for-gestational-age infants in pregnancies with adenomyosis: A cohort study of the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: エコチル調査データを用いた子宮腺筋症合併妊娠における早産・低出生体重児・子宮内胎児発育不全のリスクについての検討

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Acta Obstetrica et Gynecologica Scandinavica

年: 2019 月: 3 巻: 98(3) 頁: 359-364

筆頭著者名: 山口明子

所属UC名: 福島UC

目的:

子宮腺筋症は子宮内膜症が子宮筋層にできる病気ですが、近年早産や赤ちゃんの子宮内の発育に影響を与える可能性が報告されています。今回、エコチル調査データを用いて、子宮腺筋症と早産、低出生体重児/子宮内胎児発育不全児出生のリスクについて調査しました。

方法:

2011年から2014年のエコチル調査データを用いて、子宮腺筋症のある例と子宮腺筋症のない例とで、早産(34週未満・37週未満)、低出生体重児(1500g未満・2500g未満)、子宮内胎児発育不全のリスクを解析しました。結果に関わる因子として、母体年齢・喫煙・不妊治療・分娩歴・子宮筋腫/子宮内膜症合併・BMIをあげて検討しました。

結果:

93,668人の妊婦が解析対象となりました。そのうち子宮腺筋症があったのは311例でした。解析により、子宮腺筋症は早産(34週未満および37週未満いずれにおいても)、低出生体重児の出生(1500g未満および2500g未満いずれにおいても)、子宮内胎児発育不全のリスクとなることがわかりました。

考察:(研究の限界を含める)

今回の調査で、子宮腺筋症は早産・低出生体重児出生・子宮内胎児発育不全のリスクとなることが示されました。そのため、妊娠前のカウンセリングや妊娠中も注意深い管理が必要と考えられます。本研究の限界点としては2つ挙げられます。第1に子宮腺筋症の診断が自己回答式アンケート調査によっている点、第2に子宮腺筋症の病変のタイプなどについての検討が行われていないことです。

結論:

エコチル調査データを用いた多変量解析により、子宮腺筋症では早産・低出生体重児出生・子宮内胎児発育不全に注意する必要があることが示されました。